

水稻の生育状況と今後の管理対策（第8号）

令和6年8月21日
新潟県農林水産部

〔生育概況〕

- ◎ 主要品種の出穂期（県平均）は、こしいぶきで平年に比べ2日早い7月24日、コシヒカリで1日早い8月3日、新之助で2日早い8月9日でした。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 8月15日発表の北陸地方1か月予報（8月17日から9月16日）では、平均気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並か多いと予報されています。
- ◎ 8月19日発表の高温に関する早期天候情報（北陸地方）では、8月25日頃からかなりの高温が予報されています。
- ◎ 早生品種では出穂期以降高温で推移しており、収穫期が早まる可能性があります。

〔今後の管理対策のポイント〕

早生品種

- ◎ 極早生・早生品種では、成熟期となっているほ場があります。
- ◎ 高温で推移していることから、刈遅れによる基部未熟粒の発生が懸念されます。玄米品質の低下を防ぐため、収穫開始を50℃程度（2日程度）早めて収穫してください。そのため収穫作業が計画的に行えるよう準備してください。
- ◎ 適期に収穫するために、地域のJAや農業普及指導センターの技術情報や出穂後積算気温表などを参考にし、ほ場ごとに籾の黄化した割合で収穫期を判断しましょう。籾の黄化割合が85～90%くらいになった頃が収穫適期ですが、茎葉や穂軸は青くても籾は成熟している場合もありますので穂をよく観察してください。
- ◎ 乾燥温度や乾燥速度に注意し適正な乾燥で胴割れ米の発生を防止しましょう。適正な籾すり・選別で未熟粒や被害粒等を除去し、整粒歩合の高い1等米に仕上げましょう。

コシヒカリ・新之助

- ◎ 出穂期後25日まで飽水管理^{*1}を継続しましょう。
- ◎ 週間天気予報や2週間気温予報を確認し、高温が続く場合や降雨が少ない場合は、稲の倒伏や土壌の状態を考慮した上で、出穂期後30日まで飽水管理を継続しましょう。
- ◎ 新之助は用水の通水最終日にしっかりとかん水しましょう。
- ◎ 高温が続いた場合、白未熟粒の発生を抑えるため、収穫時期を早める場合があります。また、台風などの影響で早めに収穫する場合があります。地域の技術情報や出穂後積算気温表などを参考にし、早めに収穫の準備をしましょう。

*1 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

熱中症予防

- ◎ 暑い日が続くと予想されています。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。
- ◎ 特に、「熱中症警戒アラート」が発表されている日は、熱中症の危険性が極めて高いので、のどが渇く前にこまめに水分補給するなど、いつも以上に積極的に熱中症の予防に努めてください。

〔補足資料〕

1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（8月15日現在）

コシヒカリ

- 生育調査ほの出穂期は県平均で平年より1日早い8月3日でした。

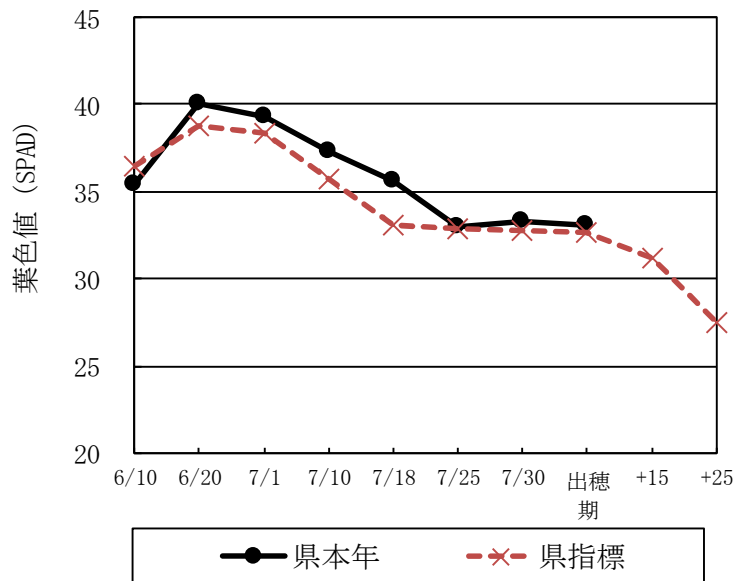
項目	本年	平年	平年差
出穂期	8月3日	8月4日	-1

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/m²）

- 出穂期の葉色は指標値と比べ「並」の状況でした。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
出穂期葉色 (SPAD値)	33.1	32.7	並	+0.4

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/m²）



生育調査ほにおける葉色の推移

新 之 助

○ 生育調査ほの出穂期は県平均で平年と同じ8月11日でした。

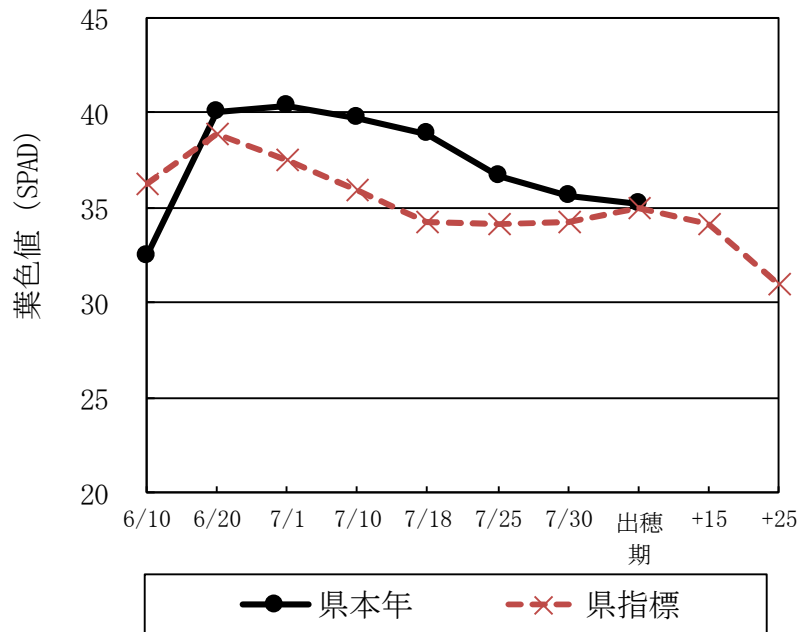
項目	本年	平年	平年差
出穂期	8月11日	8月11日	±0

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月18日、栽植密度16.6株/m²)

○ 出穂期の葉色は指標値と比べ「並」の状況でした。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
出穂期葉色 (SPAD値)	35.2	35.0	並	+0.2

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月18日、栽植密度16.6株/m²)



生育調査ほにおける葉色の推移

こしいぶき (参考)

○ 作物研究センターの出穂期は平年並の7月27日でした。

項目	本年	平年	平年差
出穂期	7月27日	7月27日	±0

注1) 化学肥料栽培。田植え5月10日、栽植密度18.1株/m²

注2) 基肥窒素成分量3.0kg/10a、穂肥窒素成分量3.0kg/10a

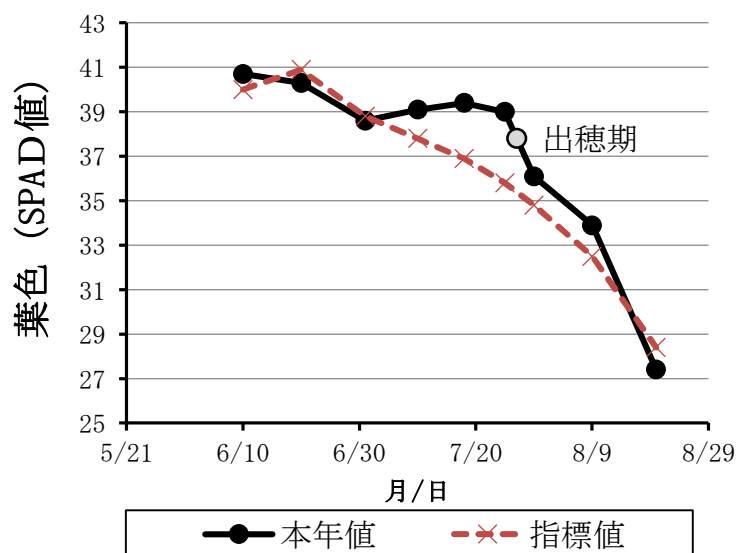
(1.5kg×2回分施：1回目7月5日、2回目7月12日) ※令和5年までは1.0kg×2回分施

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ

注4) 指標値は作物研究センターにおける直近10年間の平均値

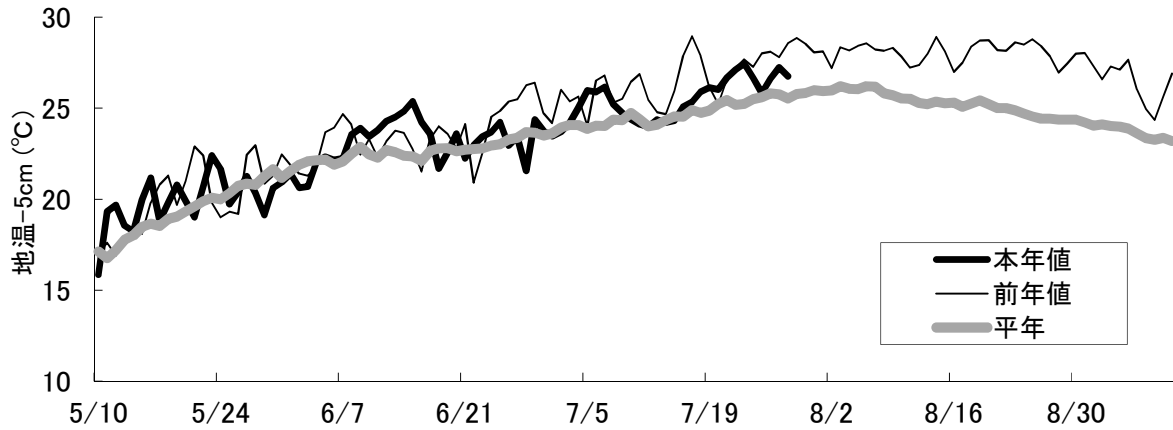
○ 作物研究センターの出穂期の葉色は指標値と比べ「濃い」状況でした。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
出穂期葉色 (SPAD値)	37.8	35.2	濃い	+2.6

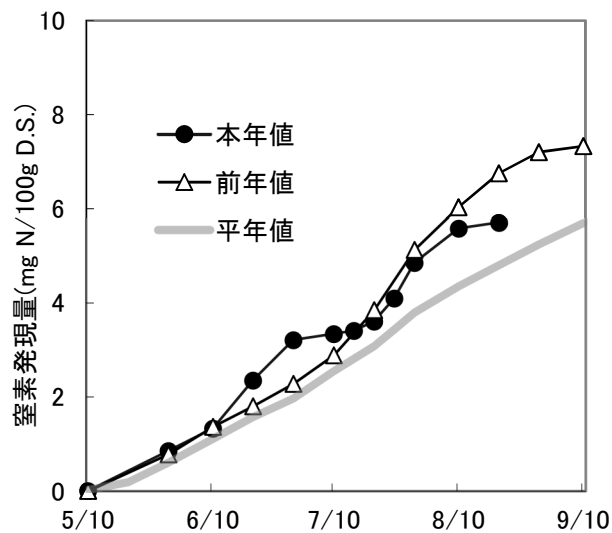


2 ちりょく 地力窒素の発現状況

- 7/29～8/18 の期間の日平均地温は平年差+0.5℃で平年並みに推移しました。この期間までの地力窒素発現量は平年よりやや多く発現しています。



水田地温（5 cm 深）の推移
 （農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）



地力窒素発現量の推移（8月19日）

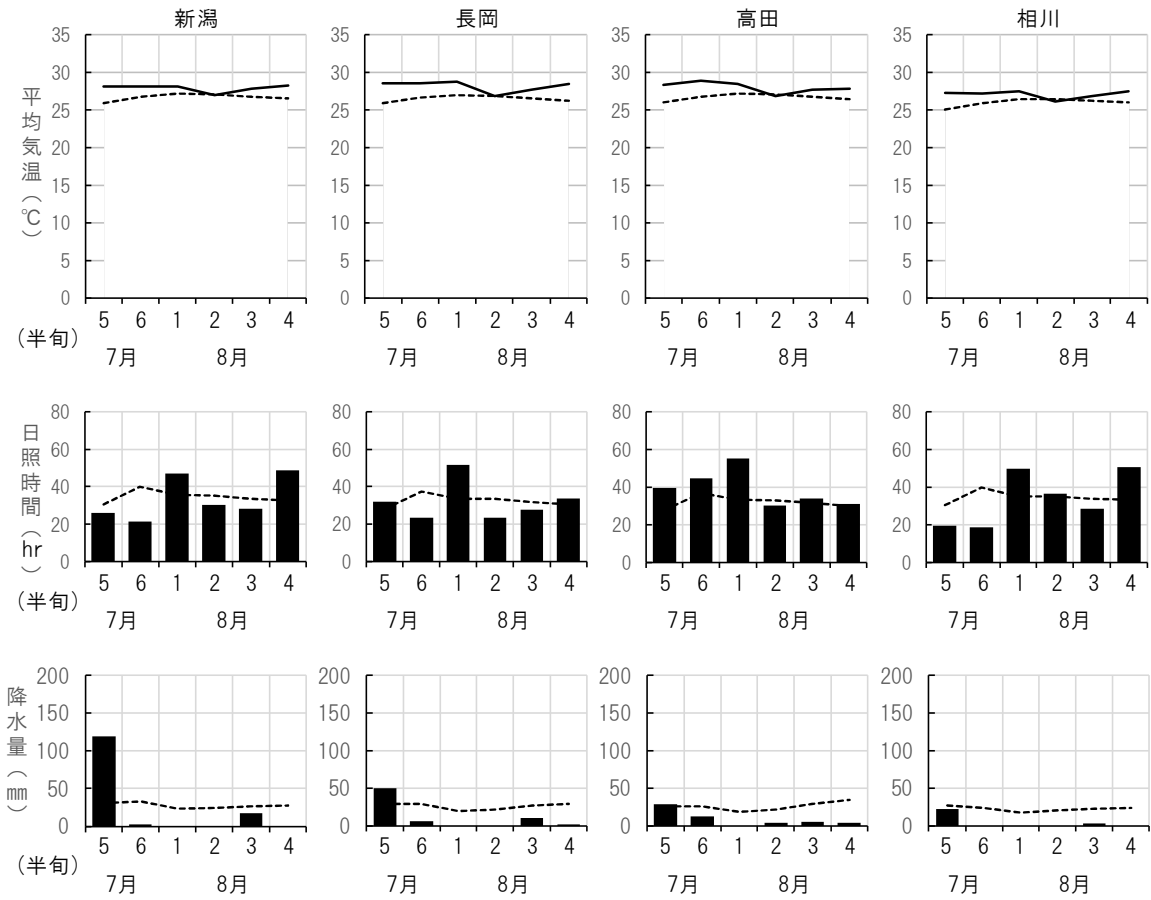
（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）

初期値=0、田植日：5月10日、化学肥料栽培

基肥窒素成分量：3.5 kg/10a

3 気象の推移からみた収穫適期のめやす

気象の推移 (アメダスデータ)



収穫適期のめやす

- コシヒカリは、高温登熟年では、刈り遅れにより基部未熟粒等の発生が高まるので、玄米品質の低下を防ぐため、収穫開始を早め、適期に収穫してください。
 - ①出穂期5～24日後までの平均気温が26℃以上、27℃未満の場合には、50℃程度（2日程度）早める。
 - ②出穂期5～24日後までの平均気温が27℃以上の場合には、100℃程度（4日程度）早める。
- 出穂期後10日間の最高気温が高温（概ね33℃以上）の場合や、登熟後半が高温条件となって籾水分の低下が早く、立毛胴割れの発生が懸念される場合には、収穫開始を50℃程度（2日程度）早め、刈り遅れに特に注意してください。

熟期	品種	出穂後積算気温（℃）	
		高温登熟年	平温年
早生	こしいぶき、わたぼうし、五百万石	925	975
	ゆきん子舞	900～950	950～1,000
	つきあかり	1,100～1,200	1,100～1,200
中生	コシヒカリ	950 (900) 注3)	1,000
	こがねもち	950	1,000
晩生	越淡麗、いただき	950～1,000	1,000～1,050
	新之助、あきだわら	1,000～1,050	1,050～1,100

注1) 出穂後積算気温は、出穂期の翌日から起算する。

注2) 高温登熟年の判断のめやす

- ①出穂期1～10日後までの平均日最高気温が33℃以上（胴割粒率の増加）
- ②出穂期1～20日後までの平均気温が27℃以上（白未熟粒の多発誘因）
- ③出穂期5～24日後までの平均気温が26℃以上、27℃未満（基部未熟粒の多発生）

注3) 出穂期5～24日後までの平均気温が27℃以上（基部未熟粒の多発生）

本年の登熟気温

登熟気温の指標	コシヒカリ(8/3 出穂)		
	本年	前年	平年
出穂期1～10日後の平均日最高気温 (33℃以上で胴割粒率増加)	30.7	36.2	31.3
出穂期1～20日後の平均気温 (27℃以上で白未熟粒多発誘因)	27.9	30.9	26.8
出穂期5～24日後の平均気温 (26℃以上で基部未熟粒が多発生)	28.1	30.9	26.5

注) 新潟普及指導センターの出穂期、気温データはアメダス新潟、8/20以降は2週間気温予報（新潟）の最高気温と最低気温の平均値を平均気温として算出